

セミナー開催案内

デジタル画像セミナー

(デジタル画像専門委員会)

第74回春季大会デジタル画像セミナーでは、併催するROCセミナーのプログラムの一部を取り上げます。学会プログラムとして開催いたしますので、学会参加者は、ROCセミナーの受講申込みをしていなくても自由に参加可能です。ROC解析に興味のある皆様には、是非ご参加くださいますよう、よろしくお願いいたします。

日 時：平成30年4月21日(土曜日) 13:30~15:00

場 所：第二会場(臨床第一講義室)2階

内 容：手計算による連続確信度法ROC曲線作成(演習)
LROC/FROC解析と観察者実験計画法(講義)

乳房画像セミナー

(乳房画像専門委員会)

当専門委員会では、大変狭い臨床領域ながらも、報道をはじめ、話題の多い乳房画像についての情報交流の場を繋げております。

春季大会では、テーマを「ステップアップ マンモグラフィ3」とし、昨年度実施したステレオガイド下吸引式乳房組織生検のアンケート調査における報告をおこない、実施施設間だけでなく、依頼施設を含めた情報交流の場とします。また、撮影された画像からのポジショニング評価を専門委員の講演からエア体験いただき、会員の皆さんが各施設で実践、指導いただくきっかけの場としたいと考えています。

いずれも、当専門委員会での継続課題ですが、研究活動をされている学生さんから、臨床現場で実際に検査されている方々まで、ぜひご参加ください。

日 時：平成30年4月21日(土曜日) 17:10~18:10

場 所：第三会場(看護部研修室)地下1階

テーマ：「ステップアップ マンモグラフィ3」

座 長：阿部 裕子(KKR札幌医療センター)

演題① 北海道におけるステレオガイド下吸引式乳房組織生検 2017年度アンケート調査

演 者：杉本 晴美(札幌医科大学附属病院)

演題② マンモグラフィからみるポジショニング評価

演 者：砂金 尚枝(北海道勤労者医療協会 勤医協中央病院)

瀬野尾勤子(北海道対がん協会 旭川がん検診センター)

アンギオセミナー

(アンギオ専門委員会)

前回までのセミナーでは、頭頸部領域、腹部領域など「領域」を対象としてどのような検査・治療が行われているかをお話ししてきました。今回のセミナーでは「経カテーテル的大動脈治療 (TAVI/TAVR)」と一つの治療法を対象をしぼってお話ししていきたいと思います。

経カテーテル的大動脈弁治療は2013年より日本国内で保険償還された重症大動脈弁狭窄症 (AS) に対する新しい治療法です。しかし、この治療法は AS の患者全員が可能なわけではなく、慎重に適応や治療方針を決定しなければならないため、医師をはじめとして我々メディカルスタッフを含めた「ハートチーム」でカンファレンスを行うことが求められるようになっていきます。

本セミナーでは、経カテーテル的大動脈弁治療とはどのような治療法なのか、また放射線技師はハートチームにどのようにかかわっているのかを、当院での経験をもとにお話ししたいと思います。普段血管撮影に携わっていない方や経カテーテル的大動脈弁治療を行っていない施設方にも伝えられるような内容にしたいと考えておりますので、お気軽に多数の参加をお待ちしております。

日 時：平成 30 年 4 月 21 日 (土曜日) 17:10~18:10

場 所：第二会場 (臨床第一講義室) 2 階

内 容：「経カテーテル的大動脈弁治療」

司 会：工藤 環 (札幌心臓血管クリニック)

演 者：須藤 洋平 (札幌医科大学附属病院)

消化管&超音波セミナー

(消化管&超音波専門委員会)

今回のテーマは『ちょいワザさんを連れてきた～検査技術のワンランクアップ～』としました。

春と言えばフレッシュャーズがたくさん職場に入ってきますとともに業務の配置換え等変化の時となります。そこで今回のセミナーは、消化管造影・超音波ともに『ちょいワザさんを連れてきた～検査技術のワンランクアップ～』と題してセミナーを行います。

一人で検査ができるようになったばかりの初心者と指導できる技師は何が違うのでしょうか？指導者は知識と経験に裏打ちされたちょっとしたテクニックを持っています。それを駆使することで、あまり条件の良くないタフな患者さん (受診者) に対し最大限のパフォーマンスを発揮できるのです。今回は日常検査におけるちょっとしたテクニックをぜひ学んでいただきたいと思います。

みなさんの参加をお待ちしております！

日 時：平成 30 年 4 月 21 日 (土曜日)

場 所：第一会場 (講堂) 1 階

テーマ：『ちょいワザさんを連れてきた～検査技術のワンランクアップ～』

座 長：島崎 洋 (JA 北海道厚生連遠軽厚生病院)

演題① 「胃 X 線検診編」 演者：荒井 雅昭 (北海道対がん協会 札幌検診センター)

演題② 「腹部超音波編」 演者：北口 一也 (JA 北海道厚生連札幌厚生病院)

CT セミナー

(CT 専門委員会)

現在、CT 検査では日常、緊急検査ともに臨床診療に欠かせないモダリティとなっている。業務拡大により読影補助への参画も望まれており、特に救急診療時は放射線技師が画像診断の一角を担わなければならない。CT セミナーでは、「新人に聞いてほしい！見逃してはいけない…」をテーマに挙げ、日常検査および救急検査において、見逃してはいけない所見、なぜ見逃してはいけないのか、予期しなかった所見を発見したときの対応などわかりやすく解説し、理解を深めていただきたいと思います。多数のご参加お待ちしております。

日 時：平成 30 年 4 月 22 日(日曜日) 12:00～13:30

場 所：第一会場（講堂）1 階

テーマ：「新人に聞いてほしい！見逃してはいけない…」

座 長：高林 健一（北海道消化器科病院）、津元 崇弘（札幌厚生病院）

演 者：①頭頸部領域 山口 仰（北海道大学病院）

②胸部領域 小倉 圭史（札幌医科大学附属病院）

③腹部領域 箱石 卓（ジェイマックスシステム）

MR セミナー

(MR 専門委員会)

昨年末ガドリニウム造影剤添付文書『使用上の注意』の改訂が厚生労働省より通知され、ガドリニウム造影剤の潜在的なリスクに対して注目が集まっている。また平成 25 年より第 2 世代のガドリニウム造影剤が本邦で販売開始され、その有用性や従来製品との差について多数の報告がされてきている。本セミナーでは「Gd 造影剤 UP DATE」をテーマとして、Gd 造影剤の安全性の基礎と最新知見、第 2 世代 Gd 造影剤の臨床的有用性について文献的考察を含めて解説する。

MR 初心者の方にはわかりやすく、ベテランの方には復習と知識のアップデートとなる内容にしたいと考えておりますので、多数のご参加をお待ちしております。

日 時：平成 30 年 4 月 21 日(土曜日) 13:00～14:30

場 所：第一会場（講堂）1 階

テーマ：「Gd 造影剤 UP DATE」

座 長：中西 光広（札幌医科大学附属病院）、石坂 欣也（北海道大学病院）

演 者：①Gd 造影剤安全性の基礎から最新知見 畠山 遼兵（市立函館病院）

②第 2 世代 Gd 造影剤の臨床応用 福田 泰之（市立旭川病院）

医療情報セミナー

(医療情報専門委員会)

今回の医療情報セミナーでは、医療情報分野で研究を始める際のワンポイントと課題について取り扱います。新しい装置を導入したり、新しい検査法を取り入れて研究を行う際、物理評価・視覚評価といった評価法は概ね確立していると思います。しかし、医療情報の分野はどうでしょう？新しいシステムを導入したり、新しい情報を取り入れて研究を行おうとしても、評価方法がわからなかったり、確立した手法がないため、どうやって研究を始めれば良いかわからないかもしれません。

本セミナーでは、初心者の方や医療情報の分野に興味がある方を対象として、医療情報分野での研究の始め方、どのようにデータを収集すればよいか、医療情報システムから得ることのできるデータや仕組みを、幾つかの国内・国外の学会に投稿した実例を用いてわかりやすく説明します。委員一同、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：平成 30 年 4 月 21 日(土曜日) 14:00～15:00

場 所：第三会場（看護部研修室）地下 1 階

テーマ：「医療情報分野における研究のすゝめ」

司 会：谷川 琢海（北海道科学大学）

演 者：福田 晋久（北海道医療センター）

谷川原綾子（北海道科学大学）

整形外科セミナー

(整形外科専門委員会)

「疲労骨折」という言葉は、だれしも一度は聞いたことがあるかと思います。明らかな外傷機転がなく、患者様本人にしてみれば突然痛みを感じることも少なくありません。

これまでの整形外科セミナーでは、受傷機序が比較的是っきりしているものにフォーカスしてきましたが、これですべてをカバーできるわけではありません。今回の整形外科セミナーでは、このわかっているようであまりわかっていない「疲労骨折」にスポットを当て、概要編として、①病態編、②ケース編（下腿・足根骨・中足骨を中心に）の 2 部構成で考えてみたいと思います。

皆様と活発な議論ができればと考えております。多数のご参加をお待ちしております。

日 時：平成 30 年 4 月 21 日(土曜日) 13:00～14:00

場 所：第三会場（看護部研修室）地下 1 階

テーマ：「疲労骨折について考える」

座 長：谷 祐児（旭川医科大学）

演 者：①病態編

未 定（整形外科専門委員会）

②ケース編（下腿・足根骨・中足骨を中心に）

未 定（整形外科専門委員会）

計測防護セミナー

(計測防護専門委員会)

私達が一般の人へ向けて放射線について話すとき、身の周りの放射線をよく例に挙げます。特に、ラドン・トロンやカリウム 40 などの自然放射線からの被ばくについて、解説をしたりされているのではないのでしょうか。しかし、私達自身、このような自然放射線について学ぶ機会は、余りなかったのではないのでしょうか。本セミナーでは、専門の先生からラドンについて日本国内での現状のお話を伺いつつ、皆さんと一緒に学びたいと考えています。希少な機会ですので、放射線や被ばくについて説明をする機会のある方など、是非ご参加頂ければと思います。

【講演内容】

ラドン濃度を連続して計測し桜島近郊におけるラドンの日変動や季節変動を明らかにした。その屋外ラドン濃度は国内や国外の平均ラドン濃度よりも僅かに高い結果が得られた。高濃度のラドンを頻回に記録し、桜島の火山活動との関係について解析を行った結果、噴火回数間に統計的に有意な相関関係が認められた ($P < 0.05$)。

日 時：平成 30 年 4 月 22 日(日曜日) 12:00~13:00

場 所：第三会場(看護部研修室)地下1階

テーマ：「桜島近郊のラドン濃度」

座 長：森 泰成 (JCHO 北海道病院 放射線部)

演 者：樋口 健太 (日本医療大学 保健医療学部 診療放射線学科)